

光星逆転 接戦制す

春季
県高校野球

第6日

代打新谷の右前適時打に敵失が絡んでさらに2点を加え、勝ち越しに成功した。三回から救援した及川は7回を被安打1、無失点と好投した。

八工大一は二回、小島慧のスライズなどで2点を先制。先発のエース上小路が粘投を続けたが打線が援護できなかった。



工大一 主戦粘りきれず

春季東北地区高校野球大会は第6日の18日、青森市の県営球場と八戸市の長根公園野球場で準々決勝4試合を行い、4強が決まった。八戸学院光星は3-2で八工大一に逆転勝ちし、青森北は9-8で弘前工との接戦を制した。弘前学院聖愛は6-0で八工大二に快勝。青森山田は聖ウルスラに8-0で七回コールド勝ちした。大会第7日の24日は、長根公園野球場で準決勝2試合を行う。

(本紙取材班)

光星×青北

聖愛×山田高

4強決定 24日激突

24日の試合

(左のチームが一塁側)

◇準決勝

▷八戸市長根公園

八学光星-青森北 (10・0)

弘学聖愛-青森山田 (12・30)

上小路 7回隙突かれる

〇…完投した八工大一のエース上小路は「(失点した)七回は粘りきれなかった」と反省した。

コントロールは上々。さまざまな球種を使い分け、六回まで単打1本に抑えた。しかし七回、得意のスライダーがわずかに浮き上がった隙を突かれ、三塁打を許したのをきっかけに3失点。送球ミスや失策が重なったのも痛かった。打撃陣は反撃を試みるも、取り返すことができなかった。

長谷川監督は、目に見えない守りのミスが多かったことを挙げ「落ち着いて瞬間的に(打球処理の正しい)判断ができるよう、練習しなければ」と語った。

〔八学光星-八工大一〕三回から登板し、7回を無失点と好投した八学光星の及川=長根

2番手及川 7回零封

ヒーロー

2年連続同カードとなった準々決勝は、八学光星に軍配が上がった。三回から登板した最速141km/hの2年生石腕・及川は三塁を踏ませない安定した投球を披露し、7回を被安打1、無失点と好投。「打者一人一

人に全力で投げ切れたことがよかった」と胸を張った。前日(17日)の3回戦から連投となったが「疲れはな、投げる準備はできていた。先発長谷川からマウンドを託されると、130km/hの中盤の直球に4種類の変化球を織り交ぜ、4イニングを三者退に抑えた。最終打者を中飛に仕留める

と仲間と抱き合いながら接戦を制した喜びを爆発させていた。宮城県富谷市出身。中学時代は東日本選抜メンバーとしてボイスリーグの世界大会に出場し海外の代表を相手に好投した経験を持つ。高校入学後は内野手としてプレーを続けていたが、冬期間に投手へコンバート。身長は169cmと決して大きくはないが「投手

の方が自信がある。投げていて楽しい」と笑った。「打たせて取るピッチングが持ち味の投手。いい経験を積むことができた」と仲井監督。及川は「春に優勝しなければ夏の優勝はないと思っている。自分の売りである強気のピッチングでチームを勝たせたい」と力強く語った。

(横方好華)